

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)に係る事業実施結果

平成26年度補正予算により措置された「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)」を活用して実施した事業の検証結果については、事業終了後、外部有識者会議において事業の検証を実施し、公表することとされています。

【地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)を活用して実施した事業】

	事業概要	実績額	指標			今後の方針	今後の方針理由
			内容	目標値	実績値		
1. 地方人口ビジョン・地方版総合戦略策定事業	「幸手市人口ビジョン」及び「幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する。	9,083,308					
2. 災害に強い安心安全な保育所づくり事業	安心安全な保育所づくりのため、防災用品を備蓄するとともに、保育士の防災士資格の取得や避難訓練の再点検等を行う。 ・防災士資格取得者数 10人 ・窓ガラスへの飛散防止フィルムの貼付けを実施した保育所 第1保育所、第3保育所 ・防災用品の備蓄 第1保育所、第2保育所、第3保育所	3,041,068	防災訓練の実施回数	12回	12回	追加等更に発展させる	保育士が防災士の資格取得するなど意識向上に効果があった。平成28年度は防災から危機管理全般にまで幅を広げていきたい。
			児童の防災意識啓発(講演会の開催)	3回	0回		
			被害が想定される箇所の対応(窓ガラス)	1300	4,999		
3. きめ細かな保育事業	児童一人ひとりの個性を捉え、児童の可能性を尊重した、きめ細やかな保育を実施するとともに、保育の質の向上と保育環境の改善を図る。 ・通常の人数配置に比べ加配した保育士数 8人 ・所庭への遊具の設置、保育用品の購入 第1保育所、第2保育所、第3保育所	10,602,011	発達が気になる子に対応する加配保育士の配置	3人	8人	事業の継続	引き続ききめ細かな保育を提供していく。
			4、5歳児の外遊び時間の確保	1時間/日	1時間/日		
			食育に関する講和の実施	3回	3回		
4. 放課後児童クラブ室開設準備事業	小学校に通う児童の働く親を支援するため、放課後児童クラブ(学童保育室)の拡充を図る。	1,000,000	放課後児童クラブ室開設	2箇所	2箇所	事業の継続	引き続き放課後クラブ室については開設していく。
5. さってアフタースクール事業	児童の学力向上、学習の習慣化のため、放課後の教室を利用して、地域の教員OBなどが国語・算数を中心に、授業の復習や宿題の支援等、児童へ学習支援を行う。 ・対象者 市内3校(吉田小、八代小、権現堂川小)の小学校4～6年生	6,268,391	開催回数	100回	279回	追加等更に発展させる	事業実施により児童の学習意欲向上が見られた。今後も継続実施することで、地域活性化のために魅力的な学習環境の提供が行えると考えている。
			参加人数	2,000人	3,317人		

【地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)を活用して実施した事業】

	事業概要	実績額	指標			今後の方針	今後の方針理由
			内容	目標値	実績値		
6. 不妊治療助成事業	不妊に悩む夫婦に対し、不妊治療費を助成する。(夫婦1組につき限度額1回10万円)	1,680,964	不妊治療助成事業の申請者数	40組	17組	事業の継続	実績は重要業績評価指標42.5%にとどまったが、平成28年4・5月の申請は12件あり、うち11件は平成27年度中の治療に対する助成申請であることから、不妊治療を受ける機会を増やすことに効果があったと考えられる。
7. 3世代ファミリー定住促進事業	3世代ファミリーの形成の促進及び市内への定住促進を図るため、市内に初めて住宅を取得する際の費用の一部を補助する。(住宅取得(建物)価格(税抜き)の5%の金額、限度額50万円)	4,142,040	助成件数	6件	9件	事業の継続	複数年度継続して行うことが望ましいと考えられるため、平成29年度まで実施する。その後については、検討。
8. 避難所授乳テント等備蓄事業	災害に備え、避難所における授乳用テントや食糧など、乳幼児家庭に配慮した防災用品を備蓄し、防災訓練時の備蓄品展示により市民に周知する。 ・授乳用テントの購入 27張 ・乳幼児用備蓄品の購入 ・防災訓練消耗品の購入	2,087,254	全避難所への授乳テントの備蓄	27箇所	27箇所	事業の継続	購入した授乳テントを継続して各避難所に配置し、災害時に使用する。
			乳幼児家庭に配慮した防災訓練の実施	1回	1回		
		37,905,036					